学校保健委員会　アンケート集計

今年度を振り返っていただき、アンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。

＜PTA 役員＞

たくさんの対応、まとめ、いつもありがとうございます。
食物アレルギー対応が特にわかりやすく良かった。食物に対するアレルギーがある子は、その他アレルギー原因もあり大変だと思いますが、今後も事故がないよう願っています。

＜学校三師＞

〇学校医　辰見宜夫先生

新型コロナウイルス感染症流行の中で児童生徒達の健康保持増進等に配慮された多くの年間予定が設定されている。感染症対策はいずれの感染症であっても標準予防策が基本であることは多くの専門家が指摘しているところである。

オミクロン株については、従来株より潜伏期間が短く約 3 日と報道されており、ウイルスの排出は症状軽快後も 2 日程認められるとされている。症状としては、発熱、咳、全身倦怠感等が高率にみとめられる。症状（かぜ症状）出現後は約 1 週間で 80%程の人は軽症の末、治癒するとされている。感染経路は飛沫による気道系が主体であるが尿・便へのウイルス排泄も認められることから多数の人が使用する共同トイレの定期的な消毒にも配慮が必要と考えられる。

上記の通り感染経路は主として飛沫感染とされているが、当校では医療的ケアへの対応も求められていることからエアロゾル感染にも認識が求められる。エアロゾル感染について、厚生労働省の見解では、1. 密閉空間で起り得る、2. 主な感染経路ではない、3. 医療機関でエアロゾルを発生される医療処置をするときには空気感染（エアロゾル感染）予防策を推奨する、ということになっている。

医療処置には 7 項目あげられているが、当校での該当項目としては、口腔内吸引、ネブライザー吸入の 2 項目と考えられる。エアロゾル感染するケースとしては、排泄される病原体の量で決まるため少なければいくら近距離でも感染する人はいないとされている。

令和 4 年 2 月 2 日文部科学省の学校でのガイドライン改訂によると、臨時休業を概ね数日～5 日程度、学級閉鎖を 5 日間程度としている。大阪府教育庁の方針は府立学校に向けて教育活動の継続を重視した内容となっていると聞いている。その 1 つに“直近 3 日間の陽性者と濃厚接触者数が学級において複数（15%以上）確認された場合は原則 3 日間の学級閉鎖とする”となっている。

急速な感染拡大への対応も迅速性が求められるが、現実には難しい課題が随所にみられるところである。

食物アレルギーについては大阪府教育委員会の「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」に詳細な記述がなされている。

おわりに、小学部・中学部・高等部の児童生徒にはそれぞれの段階での発育特性があり、保健室情報も参考にしながら観察を続け、各自にふさわしい発育が進むことを期待し、次年度に繋いでいきたい。

〇学校歯科医　永田篤先生

今年度もコロナ禍で、具体的な個別のブラッシング指導はできませんでした。

その一方で、zoom などを利用した歯科相談などの新しい試みが出来たのは有意義であったと思います。今後も保護者とのコミュニケーションに利用できるかもしれませんね。

高等部の口腔衛生指導は、歯周病に関する理解を深めて、症状が無くても定期的に歯科受診をする必要性とコロナ禍におけるブラッシング法を勉強してもらいました。

コロナ禍である以上人との接触機会は最低限であるほうが安全ではありますが、過度な受診控などによって、基礎疾患や口腔内環境の悪化も心配されます。

最低限でも良いので、歯科への定期受診はして欲しいものです。

〇学校薬剤師　井上朋子先生

新型コロナウイルス感染症の流行から三回目の冬となりました。先生方も日々に渡り細心の注意を払っておられ、感染予防に努めておられたことと思います。

本年度は久しぶりにプール授業が行われ、気持ちよさそうに泳ぐ子どもたちをみて、こちらも嬉しくなりました。我々学校薬剤師も、環境衛生検査などを通じて、安全に学校生活が送れるよう努力したいと思います。

寒い日が続いています。エアコンにて温度調節をしながらの授業となっていると思いますが、コロナウイルス感染予防のためにも換気を忘れずにお願いします。

人数が多い教室、換気の度合いが低い教室などではあっという間に二酸化炭素濃度が上昇してしまいます。常時、教室の対角線上の窓を 20 センチあける、換気扇を稼働させておく、休憩時間にはしっかり窓をあけて空気を入れ換える、など常に換気を実施するようにしてください。